

○肝炎医療コーディネーターは、医療機関、行政機関、その他の関係機関の職員にウイルス性肝炎に関する正しい知識を得てもらうことで、肝炎患者が適切な肝炎医療や支援を受けられるようにするため、平成23年度より養成。

1. 肝炎医療コーディネーターの指定医療機関への配置について

高知県肝炎治療特別促進事業実施要綱にて令和5年3月1日から以下の条項を追加。

第8 治療医療機関の認定

(2) 高知県肝炎医療コーディネーターを治療医療機関の認定日の翌年度末までに一人以上の配置ができる医療機関。ただし、令和5年2月28日時点で治療医療機関の認定を受けている医療機関においては、令和10年3月31日までに高知県肝炎医療コーディネーターの配置をすることとする。

・R6.1.11現在の養成済の治療医療機関は、95施設中43施設である。

指定医療機関の認定要件となっている肝炎医療コーディネーターの1人以上の配置について上記内容が要綱に追加されてから初めての養成研修で14機関、18名の新規コーディネーターを養成予定(R6.2.9実施予定)。

①新規機関は4機関、5名。

②治療医療機関95ヶ所中、47ヶ所(49.4%)に配置される見込み。

2. 肝炎医療コーディネーターの認定期間について

高知県肝炎医療コーディネーターの養成及び活用に関する要綱にて令和4年12月1日から以下の条項を追加。

第5条

第1項の規定による認定の期間は、3年間とする。

- ・全養成者428名のうち、実働数は321名(転勤、退職等除く)。
- ・令和7年度末にコーディネーター認定期間が終了する者は304名、令和8年度末は17名。

	医療機関	協会けんぽ	行政機関		その他	計
			保健所・健康課	市町村		
養成者数	232	5	58	129	4	428
実働数	176	3	43	95	4	321
認定期間 (R7年度末)	162	2	42	95	3	304
認定期間 (R8年度末)	14	1	1	0	1	17

3.肝炎医療コーディネーター活動の実際について

R5年度肝炎医療コーディネーターフォローアップ研修会における、受講生の意見

〈グループワークにおいて各班で出された課題等(一部抜粋)〉

- ・治療後に定期検診に来ない人がいる。
- ・症状がない場合は受診に繋がらない人が多い。
- ・院内で情報共有を行いたくとも時間が取れずに実施できないことがある。
- ・陽性者を治療に繋げるシステムを(院内で)立ち上げても、年数経過によって知らない職員が増加する。また、専門外のDr.が陽性患者の対応に当たった場合治療に結びつかない事例がある。
- ・施設長の意向、費用、人材に対する意識の問題がある。
- ・肝炎治療が進歩していることに関する周知の方法が不足している。
- ・病院自体が肝炎対策を重要視していないため協力的ではない。

患者さんへのフォロー

院内での周知・連携

⇒コーディネーターとして活動するためには他部署等との連携が必要であるが、時間的な制約や院内の体制等によって連携が難しい現状あり。

高知県での対応案について（協議事項）

(1) 新規養成研修の開催頻度・方法について

今年度は18名の参加(予定)。対面での参加人数はなかなか増加に至らない。

また研修会の参加にあたり、医療機関の所属人数が少なく、人を出せないため研修会を受けられないとの相談もあった。

①新規養成の開催を2回実施を検討中(例えば7月、11月と期間をあけることで参加機会を増やす)。

②過去の開催ではweb/DVDでの受講時に参加者が多くなっている。全治療医療機関に肝炎の新しい知識や制度を学んだ人材を配置するために、YouTubeやDVD等で研修を受けやすい環境を作り、受講後には内容把握確認のためのアンケートを行う形にしてはどうかを検討中。

年度	新規養成研修	人数	方法
H30	1回目：H30.10.3(水) 2回目：H30.10.4(木)夜・H30.10.9(火)夜	36	対面
R1	R2.1.31(金)	19	対面
R2	—	—	—
R3	R4.1.17(月)~2.18(金)	69	web/DVD
R4	—	—	—

(2) フォローアップ研修の参加促進について

肝炎医療コーディネーターの認定期間を最大3年間とし、フォローアップ研修を受講することで認定期間を延長できることとしている。R5年度は更新者の人数は17名。来年度は案内の該当者氏名欄に、コーディネーター有効期限の記載を検討中。

(3) コーディネーターの参加者について

院内の連携を含め、体制を整えていくには上層部や関係職種との理解を深めることが大切。現在参加しているのは看護師や事務職が多いが、医師等にも参加をしていただく必要性あり。